

●横浜港大さん橋

貿易の発展にともない、近代的港湾施設を整備する必要性が高まったため、明治二二年（一八八九）九月、イギリス人H・S・パーマーを技術責任者として、第一期築港工事が開始された。大さん橋は明治二七年三月に完成し、第二期工事により、大正三年（一九一四）六月に改修された。

震災のため、栈橋も壊滅的な被害を受けた。大さん橋には、当時三隻が係留中で、エンプレス・オブ・オーストラリア号は、乗客の乗船も完了し、正午の出航予定直前に地震に襲われた。

震災発生後すぐに、戒厳令下、政府主導で陸海軍による港湾施設の仮修理工事が進められた。本格的な復旧は横浜港復旧事業により行われ、大さん橋は、大正一四年九月三日に竣工した。現在の大さん橋国際客船ターミナルの完成は、平成一四年である。



震災前：絵葉書「横浜棧橋 The Pier of Yokohama.」



震災：紙焼き写真「横浜港」(『横浜大正大震災写真帖』所収)



復興：絵葉書「(大横浜) 棧橋全景 THE WHOLE VIEW IN PORT, YOKOHAMA.」